

ん、奥さんのトモコさん、8歳の男の子、レオ君との毎日はとても楽しいものでした。勤めている会社を紹介してもらったり、観光やショッピング、ランチなどに連れて行って頂いたり、ホストファミリーがこんなに尽くしてくれることは当たり前ではないので、すごくありがたいなと感じました。

2つ目は市内観光です。景色や建物の一つ一つが日本とは全然違いました。オレゴンのシボルのタワー、消防署・図書館なども見学しました。施設が充実していることに驚きました。その後、市役所を訪問し、市長さんのお話を聞き、プレゼントの交換をしました。

3つ目はウェルカムパーティーです。それぞれが料理を持ち寄る、ポットラック式で、好きなものをもって食べました。どれもおいしくてアメリカならではの食文化を体験できるともいい機会でした。ここでは、日本文化を紹介するスピーチも行われ、私は茶道を紹介しました。何人かの人にも体験してもらい、楽しんでもらえて良かったです。最後には1人1人にプレゼントもありました。こんなに私たちを歓迎してくれるのは、オレゴンと立科町が築いてきた歴史のおかげであることを改めて実感しました。

最後は皆で行った、クラッカマス・カウティフェアです。食べ物の屋台や移

動式の乗り物が数多くあり、とても大勢の人で賑わっていました。乗り物は少し怖かったけれど、日本とはまた違った楽しさを味わえました。お祭りの最後に口デオ競技を観ました。想像以上に激しく、ハラハラしましたがとても楽しかったです。会場のボルテージの上がり方も、ものすごかったです。

様々なことを体験した一週間を思い出すと、最終日のホストファミリーとの別れが本当に悲しかったです。出発前は『一週間も』と思っていたのが『一週間しか』に変わるほど素晴らしく、貴重な体験をしたんだなと思いました。一生懸命学んだ英語が通じたときは、勉強してよかったと心から思えました。私が今回オレゴン派遣事業に参加できたのは、多くの人の支えと協力があったからです。このことを当たり前だと思わず、今後の生活に何をどう活かすかしっかり考えていきたいです。今まで以上に英語の勉強に力を入れ、機会があったらまたオレゴンに行きたいと思います。最後に、今回の事業に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。



## 挑戦することで多くのことを学べたオレゴン訪問

山浦 杏

私が、今回の事業で最も期待していたことは「コミュニケーション能力を養い、反応する力を身に付けられるようにすること」でした。実際にオレゴン市へ行ってみると、スピードの早い英会話や外の景色など英語ばかりの生活で、最初は自分の目標が達成されるのか不安になりました。ですが、日がたつにつれて自分が英語で会話している時間が増えていることに気が付きました。ウェルカムパーティーの時、私のホストファミリーの友人達3人と私を含む派遣生徒3人の会話が始まりました。今まで、ここまで多くの人と一緒に会話することは少なかったので、会話の内容を聞き取れるか心配でした。でも、この時には、十分とは言えませんが会話の内容を理解でき話が弾みました。今、考えてみると、ホストファミリー皆さんのサポートが大きかったのだと思います。ゆっくり発音してくれたら、英語の意味を日本語で示してくれたら、私にも分かるように話してくれました。おかげで自分でも話が出来るという自信ができました。本当にホストファミリーの皆さんには感謝がありません。

これらのサポートのおかげで、最終日までに、オレゴン市の方々とコミュニケーションをとり相手の話に応じることができるようになり、目標を達成することができました。

次に、一番印象に残ったことは、6日目にあった、クラッカマス・カウティフェアというお祭りです。アトラクションに乗ったり、ロデオを見たりしました。アトラクションに乗るにあたって、英会話は必要不可欠でしたが6日目にもなると慣れてきていたので、上手くコミュニケーションをとることができました。少しはしゃいで、アトラクションに乗り

